

| | |
|------------------|--|
| Title | 戦国後期から江戸前期の大名の蔵書と文芸活動 |
| Sub Title | The lords' personal library and literary activities in the Sengoku-Edo period. |
| Author | 小川, 剛生(Ogawa, Takeo) |
| Publisher | 慶應義塾大学 |
| Publication year | 2019 |
| Jtitle | 学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | <p>4月、予備的研究として弘前藩第4代藩主の津軽信政 (1646-1710) の蔵書と、東奥義塾高校図書館所蔵津軽家旧蔵書「御歌書」「三拾六人集」との関係性を考察した。</p> <p>7月、今川氏の文芸についての論文「戦国大名と和漢聯句」が刊行された。引き続いて今川義元の和漢聯句について研究を進め、「今川文化の歴史的意義—和漢聯句を視座として」と題して論文執筆した。これは『論集今川義元』(5月刊行予定) に掲載される。</p> <p>8月30日-9月1日、熊本大学附属図書館・島原市立島原図書館で、熊本藩細川家と島原松平家の文芸資料の調査を行った。とくに江戸前期書写の歌書と連歌懐紙について重点的に調査した。</p> <p>10月5日、大東急文庫にて「奥文庫」印のある古写本『古曆命期筮儀』を調査、天正13年書写の足利学校旧蔵書であり、信政の旧蔵書であることを確認した。</p> <p>10月12日-13日、津軽信政を祭神とする高照神社の实地踏査、ついで高岡の森弘前藩歴史館にて、高照神社蔵史料と古典籍の書誌調査、とくに高照宮御遺鑑の詳しい考察を行った。</p> <p>10月20日、東京大学文学部国語国文学研究室蔵の『万葉集』を調査した。この本が佐佐木信綱編『校本万葉集十』にて取り上げられた津軽伯爵蔵本であり、「奥文庫」印の年代について、通説より遅れ、享和年間より幕末安政年間にわたって、津軽家で使用されたとの見通しを持たた。</p> <p>11月3日、弘前大学にて「大名の蔵書と学問—津軽信政の蔵書をめぐって」と題した講演を行い、津軽信政の蔵書とその学問の特色について考察した。</p> <p>2月13日、弘前市立弘前図書館にて、津軽家文書および「奥文庫」印のある典籍を調査し、幕末から明治20年代にかけての典籍の扱いに関する史料を調査、撮影した。</p> <p>3月、『調査集録』5号に、前年11月の講演「大名の蔵書と学問」の内容を論文として掲載した。高照宮御遺鑑巻46「御書物題号」の翻刻と考証を掲載し、津軽信政の蔵書形成について詳細に辿ることができるようにした。</p> <p>In Japanese, you can understand the things written above more precisely.</p> |
| Notes | |
| Genre | Research Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180058 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

| 研究代表者 | 所属 | 文学部 | 職名 | 教授 | 補助額 | 200 (B) 千円 |
|--|---------------------------|------------------------|--------------------------|-------------|-----|------------|
| | 氏名 | 小川 剛生 | 氏名 (英語) | Takeo Ogawa | | |
| 研究課題 (日本語) | | | | | | |
| 戦国後期から江戸前期の大名の蔵書と文芸活動 | | | | | | |
| 研究課題 (英訳) | | | | | | |
| The lords' personal library and literary activities in the Sengoku-Edo period. | | | | | | |
| 1. 研究成果実績の概要 | | | | | | |
| <p>4月、予備的研究として弘前藩第4代藩主の津軽信政(1646-1710)の蔵書と、東奥義塾高校図書館所蔵津軽家旧蔵書「御歌書」「三拾六人集」との関係を考察した。</p> <p>7月、今川氏の文芸についての論文「戦国大名と和漢聯句」が刊行された。引き続いて今川義元の和漢聯句について研究を進め、「今川文化の歴史的意義-和漢聯句を視座として」と題して論文執筆した。これは『論集 今川義元』(5月刊行予定)に掲載される。</p> <p>8月30日-9月1日、熊本大学附属図書館・島原市立島原図書館で、熊本藩細川家と島原松平家の文芸資料の調査を行った。とくに江戸前期書写の歌書と連歌懐紙について重点的に調査した。</p> <p>10月5日、大東急文庫にて「奥文庫」印のある古写本『古暦命期筮儀』を調査、天正13年書写の足利学校旧蔵書であり、信政の旧蔵書であることを確認した。</p> <p>10月12日-13日、津軽信政を祭神とする高照神社の実地踏査、ついで高岡の森弘前藩歴史館にて、高照神社蔵史料と古典籍の書誌調査、とくに高照宮御遺鑑の詳しい考察を行った。</p> <p>10月20日、東京大学文学部国語国文学研究室蔵の『万葉集』を調査した。この本が佐佐木信綱編『校本万葉集 十』にて取り上げられた津軽伯爵蔵本であり、「奥文庫」印の年代について、通説より遅れ、享和年間より幕末安政年間にわたって、津軽家で使用されたとの見通しを持てた。</p> <p>11月3日、弘前大学にて「大名の蔵書と学問-津軽信政の蔵書をめぐって」と題した講演を行い、津軽信政の蔵書とその学問の特色について考察した。</p> <p>2月13日、弘前市立弘前図書館にて、津軽家文書および「奥文庫」印のある典籍を調査し、幕末から明治20年代にかけての典籍の扱いに関する史料を調査、撮影した。</p> <p>3月、『調査集録』5号に、前年11月の講演「大名の蔵書と学問」の内容を論文として掲載した。高照宮御遺鑑巻46「御書物題号」の翻刻と考証を掲載し、津軽信政の蔵書形成について詳細に辿ることができるようにした。</p> | | | | | | |
| 2. 研究成果実績の概要 (英訳) | | | | | | |
| In Japanese, you can understand the things written above more precisely. | | | | | | |
| 3. 本研究課題に関する発表 | | | | | | |
| 発表者氏名 (著者・講演者) | 発表課題名 (著書名・演題) | 発表学術誌名 (著書発行所・講演学会) | 学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月) | | | |
| 小川剛生 | 論文「戦国大名と和漢聯句-駿河今川氏を中心に」 | 国語国文 87-7 | 2018年7月 | | | |
| 小川剛生 | 講演「大名の蔵書と学問-津軽信政の蔵書をめぐって」 | 弘前大学人文社会科学部国際公開講座 2018 | 2018年11月3日 | | | |
| 小川剛生 | 講演「後菟玖波集前後-後光厳天皇と二条良基」 | 俳文学会東京例会 | 2018年12月22日 | | | |
| 小川剛生 | 大名の蔵書と学問-津軽信政の蔵書をめぐって | 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録5 | 2019年3月 | | | |